ACSES ニュースレター_２４３４号（2022 年 12 月 28 日）

発行：NPO 法人教育研究機関化学物質管理ネットワーク（ACSES）事務局

―目次（31 頁）―

[1] 化学物質関係事故、事件関係
◇東京 墨田区の工場火災 これまでに 5 棟が焼ける 従業員 1 人けが〈放送報道〉
◇大阪大のスキューバダイビング部、未成年の部員に飲酒強要で活動停止〈新聞報道〉
◇その他の事故、事件
・消費生活用製品の重大製品事故:照明器具(センサー付)で火災等〈消費者庁〉
・長崎大学病院でまた医療事故 看護師が医療機器の操作誤る／女性患者に記憶障がい残る 長崎大学病院でまた医療事故 今年3件目〈放送報道〉
・職場でアダルトサイトなど閲覧 113 時間 名古屋市職員を停職〈新聞報道〉
◇事故、事件の続報
・学長が役員報酬1カ月分の10%を自主返納 山形大の研究不正〈新聞報道〉
◇事故・事件対策、措置、訴訟等
・年末年始に増加する高齢者の事故に注意しましょう！－ 浴室での溺水事故、餅による窒息事故、掃除中・除雪中の転倒・転落事故等に注意 〈消費者庁〉
□大災害、原発事故対策
[原子力施設全般]
・原発運転期間延長めぐり 原子力規制庁と経産省の事前面談は7回〈放送報道〉
[2] [特集] 新型コロナウイルス感染症
[状況]
◇省庁発表
◇マスコミ報道
[3] 化学物質の環境リスク初期評価（第21次取りまとめ）の結果について〈環境省〉
[4] 労働安全衛生法第五十七条の四第三項の規定に基づき新規化学物質の名称を公表する件（厚生労働省告示第 373 号）〈官報〉
[5] 医薬品
◇医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令第三条の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品の有効成分の一部を改正する件（厚生労働省告示第 375 号）〈官報〉
[6] 食品安全衛生関係
◇特定保健用食品の表示許可について〈消費者庁〉
[7] 調査、公募、意見募集等
[公募、意見募集等] １件 [統計資料] １件
[8] その他省庁発表 １件
[9] 関連会議等の開催案内、開催記録・報告、資料等
[開催案内] １件
[10] その他
◇インフルエンザ、感染症関係：２件 ◇その他：２件
[付録]
◇年末年始に増加する高齢者の事故に注意しましょう！－ 浴室での溺水事故、餅による窒息事故、掃除中・除雪中の転倒・転落事故等に注意 〈消費者庁〉
◇2022年農業技術10大ニュースの選定について〈農林水産省〉

寒白菊（ノースポール）

****

[1] ***化学物質関係事故、事件関係***

◇東京 墨田区の工場火災 これまでに５棟が焼ける 従業員１人けが

＜NHK　2022 年 12 月 27 日＞　https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221227/k10013935681000.html

27 日午前、東京 墨田区の２階建ての工場から火が出て近くの建物に燃え広がり、これまでに合わせて５棟が焼けました。火の勢いは収まりつつありますが、１人が煙を吸ってけがをしたということです。

27 日午前 10 時ごろ、東京 墨田区立花にある「第一化学工業所」の工場から火が出ていると、近くにいた人から警視庁や消防に通報がありました。

東京消防庁が消防車 63 台を出して消火活動にあたっていますが、火は近くの建物に燃え広がり、これまでに合わせて５棟、およそ 2600 平方メートルが焼けました。

東京消防庁によりますと、現在、火の勢いは収まりつつあるということです。

工場には当時、合わせて 13 人の従業員がいて、これまでに１人が煙を吸ってけがをしたということです。

会社のホームページによりますと「第一化学工業所」は油脂加工などを行っているということです。

工場では化学薬品を扱っていたという情報もあり、警視庁などが周辺の住民に避難を呼びかけているということです。

現場は、東武亀戸線の東あずま駅から東に 400 メートルほどの住宅や工場などが密集する地域です。

現場の工場 液体石けんや業務用の化粧品など製造

会社のホームページによりますと現場の「第一化学工業所」は、昭和26年に設立され、液体石けんや業務用の化粧品などを製造しているということです。

小学校に避難所を開設へ

墨田区によりますと、火災現場の工場の周辺に煙が広がっているため、近くの東吾嬬小学校を避難所として開設しました。

また、工場の近隣の認定こども園では、園児を複数の区立保育所に避難させたということです。

隣接する江戸川区でも、平井コミュニティ会館、中平井コミュニティ会館、平井小学校の3か所を避難所として開設しています。

現場近くの会社勤務の男性「パーンというような破裂音」

現場の近くの会社に勤める48歳の男性は、「職場にいたところ、消防車が集まってきて火事があったことが分かりました。火が出てからしばらくしてパーンというような破裂音がしました。煙もすごかったし、プラスチックが燃えるような臭いもしました。会社が工場の近くにあって中に入れないので、きょうはもう帰るしかないと思っています」と話していました。

近くに住む70代男性「5、6回地響きのような音聞こえた」

現場の工場の近くに住む70代の男性は「近くで火事があると聞き、外を見ると火と煙が上がっていて、5、6回地響きのような音が聞こえました。近くでこのような大きな火事がありとても怖いです」と話していました。

近くに住む30代女性「有毒な煙が発生するおそれで避難」

現場の近くに住む30代の女性は「家にいると『有毒な煙が発生するおそれがあるので避難してください』と呼びかけがありました。貴重品だけ持ってすぐに外に出ましたが、1時間以上も状況が変わらず困っています」と話していました。

墨田区 循環バスを近くの停留所に停車させない対応

墨田区によりますと、この火災の影響で、区の循環バスについて、現場の近くの停留所には停車させない対応をとっているということです。

停車しない停留所は、北東部ルートの立花大正民家園入口、白鬚神社入口、立花四丁目の3か所です。

消火活動のため一部の道路が通行止めになっている影響だということで、墨田区では、区のホームページやツイッターで運行状況を確認して欲しいとしています。

◇大阪大のスキューバダイビング部、未成年の部員に飲酒強要で活動停止

＜朝日新聞　2022年12月23日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDR2GXZQDQPTIL013.html

大阪大学スキューバダイビング部が8月に開いた懇親会で、20歳未満の部員に飲酒を強要したとして、大学が同部を活動停止処分にしていたことがわかった。

大学によると、同部は8月中旬に大阪府内のホテルにある飲食店で、現役部員と卒業生の男女計約30人で懇親会を開き、20歳未満の部員約10人も参加していた。その際に、卒業生や上級生が、20歳未満の部員に対し、かけ声をかけるなど断りにくい状況を作り、酒を飲ませていたという。

急性アルコール中毒や救急搬送はなかったが、20歳未満の1人が泥酔して自力で歩けなくなり、上級生が自宅まで送ったという。

8月下旬に外部からの連絡で発覚し、大学側が調査。大学は11月9日付で同部を無期限の活動停止にした。同部内で再発防止策などを話し合わせ、報告を受ける予定という。

課外活動の支援などをする学生・キャリア支援課の担当者は「飲酒などについては大学として定期的に注意喚起をしてきたが、結果として十分でなかった。これまで以上の対策を講じていきたい」とコメントした。

◇*その他の事故、事件*

・消費生活用製品の重大製品事故:照明器具(センサー付)で火災等

＜消費者庁　2022年12月27日＞　https://www.caa.go.jp/notice/entry/031690/

https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_safety_cms202_221227_01.pdf

１．ガス機器・石油機器に関する事故：２件
（うち石油ふろがま１件、石油給湯機１件）

２．ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故　：１件
（うち照明器具（センサー付）１件）

３．ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故：９件
（うち電気カーペット１件、エアコン１件、配線器具（変換アダプター）１件、電気フライヤー１件、リチウム電池内蔵充電器１件、照明器具１件、電気冷蔵庫１件、ノートパソコン１件、電気給湯機（ヒートポンプ式）１件）

・長崎大学病院でまた医療事故 看護師が医療機器の操作誤る

＜NHK　2022年12月26日＞　https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagasaki/20221226/5030016866.html

先月、長崎大学病院の看護師が入院中の女性患者の頭部に挿入していた医療機器の操作を誤り、一時、意識障害や半身まひを起こしていたことがわかりました。

これらの症状はほぼ改善しましたが、いまも記憶障害が残っていて、病院は患者と家族に謝罪しました。

これは、長崎大学病院が２６日開いた会見で明らかにしたものです。

それによりますと、女性は先月２５日、くも膜下出血で病院に搬送され、手術を受けた際、頭部の「脳槽」と呼ばれる部分から髄液を抜くための管を挿入しました。

女性はその後、会話が出来るほどに回復しましたが、今月２９日、２人の看護師が本来、必要な管の操作を怠ったため、結果として、脳内で出血が起こり、意識障害と右半身のまひが生じたということです。

女性は命に別状はなく、これらの症状はほぼ改善しましたが、いまも記憶障害が残っていて、病院は患者と家族に謝罪しました。

長崎大学病院ではことし、▽７月に手術支援ロボットを使った子宮体がんの手術を受けた女性が退院後に死亡したほか、▽先月には本来抜くべきではない別の親知らずを抜く医療事故が相次いで起きて

いて、今月１３日に、「医療安全緊急事態」を宣言し再発防止を目指していました。
長崎大学病院の江口晋・副病院長は「患者やその家族に大変申し訳なく思う。医療安全という観点では重大な問題だと捉えており、問題点を抽出して、改善につなげたい」と話しています。

・女性患者に記憶障がい残る　長崎大学病院でまた医療事故 今年3件目
＜NBC 長崎放送　2022 年 12 月 26 日＞
https://news.yahoo.co.jp/articles/7b1967d0af03c8820de570bdf67a6e49756d0d3b
先月、長崎大学病院で看護師が機器の操作を誤り、患者から必要以上に血液が排出される医療事故があり、大学が会見で謝罪しました。
患者の女性は記憶障害が残っているということです。
医療ミスが起きたのは先月 29 日で、長崎大学病院の集中治療部で、くも膜下出血の手術を終えた女性患者に対し、看護師が血液や髄液の量を調節する機器の操作を誤り、必要以上に血液などが排出されたということです。
長崎大学病院は、この事故を受けて 26 日に会見を開き、謝罪しました。
長崎大学病院によりますと、女性患者には今も記憶障害が残っているということです。
長崎大学病院での医療事故は今年に入ってこれで 3 件目です。

・職場でアダルトサイトなど閲覧113時間　名古屋市職員を停職
＜朝日新聞　2022年12月27日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDW52NHQDWOIPE00V.html
　名古屋市は27日、職場のパソコンでアダルトサイトなどを閲覧したとして市立大の課長級の男性職員（59）を停職1カ月とするなど計2件の懲戒処分を発表した。
　男性職員は、1～6月、職場のパソコンで業務と関係ない成人向けの動画販売サイトや風俗店の紹介サイト、パチンコのサイトなどを計75日、計113時間52分にわたって閲覧していた。うちアダルトサイトは計58時間15分だった。
　業務外のサイトを見ていた時間のうち、7時間44分で、超過勤務手当を受け取っていた。市はこれらのサイトを見ていた時間分の給料や超過勤務手当を返還させる予定で、27万円ほどになる見通しだという。また男性職員は係長に降任した。
　男性職員は市の聞き取りに「仕事をしているときに不安なことがあると、気を紛らわせるために不適切なサイトを見てしまった」と話しているという。
　また、市は盗撮したとして法制課の男性職員（26）を停職6カ月とした。男性職員は9月、同市港区の商業施設で、女性のワンピースの中をスマートフォンで撮影した。市の聞き取りに対して、年に1、2回盗撮していたことを認め、「ストレスがたまったときにしてしまった」と話しているという。
　男性は10月、愛知県迷惑行為防止条例違反の容疑で逮捕され、その後不起訴（起訴猶予）になったという。
　県議会事務局は、全国都道府県議会議長会（東京都千代田区）に派遣している男性職員（30）が飲酒した後に自転車を運転し、女性にけがをさせたと発表した。今後処分を検討するという。
　県議会事務局によると、男性職員は、9月3日午後10時ごろ～4日午前5時ごろ、東京都内の飲食店3軒でハイボールなど計10～11杯飲んだ。その後、自転車を運転中に歩行者の女性と衝突した。女性は打撲で軽傷を負ったという。男性職員は重過失致傷の疑いで書類送検され、不起訴となったという。

◇*事故、事件の続報*

・学長が役員報酬1カ月分の10%を自主返納　山形大の研究不正
＜朝日新聞　2022年12月27日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDV7506QDVUZHB003.html
　山形大学の有機エレクトロニクス研究センター（米沢市）の研究室で研究費約3千万円が不正使用されるなどした問題で、同大は26日、玉手英利学長が役員報酬1カ月分の10%を自主返納すると発表した。
　同大ホームページで明らかにした。玉手学長は「信頼を損なう極めて重大な事態で、防げなかった監督責任を重く受け止める。再発防止に努め、信頼の回復に努める」とコメントした。
　この研究室では科学技術振興機構など国の3機関の研究費が目的外に使われ、同大は6月、60代の男性教授を停

職3カ月の懲戒処分にしたと発表していた。不正に関与した研究者が一定期間、研究資金を申請できないようにするなど3機関の処分が出そろい、自主返納を決めたという。

◇*事故・事件対策、措置、訴訟等*

・年末年始に増加する高齢者の事故に注意しましょう！

－ 浴室での溺水事故、餅による窒息事故、掃除中・除雪中の転倒・転落事故等に注意 －

＜消費者庁　2022 年 12 月 27 日＞

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_067/index.html

-----＞ 末尾［付録］

□*大災害、原発事故対策*

[原子力施設全般]

・原発運転期間延長めぐり 原子力規制庁と経産省の事前面談は７回

＜NHK　2022 年 12 月 28 日＞　https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221228/k10013936481000.html

原発の運転期間の延長をめぐって原子力規制庁が、原子力規制委員会から指示を受ける前に、推進側の経済産業省から検討状況を聞くなどしていた問題で、規制庁は 27 日、面談が７回にわたっていたことなどを明らかにしたうえで、今後、行政機関とのやりとりも記録に残すかどうか検討する必要があるという認識を示しました。

政府が原発の運転期間のさらなる延長を検討する方針を示したことを受けて、原子力規制委員会はことし 10 月、安全性を確認する制度の検討を原子力規制庁に指示しましたが、事前に規制庁が経済産業省から検討状況を聞き、制度の検討体制を整えていたことが、今月明らかになりました。

規制庁は 27 日、経済産業省との面談がことし７月下旬以降７回にわたり、８月には庁内で制度の検討を始めていたことに加え、本省の環境省に対して対応を説明する中で、検討状況が漏れていたことを明らかにしました。

規制庁は経済産業省との面談については、「協議や調整は行っておらず、独立性や透明性の点で問題はなかった」とした一方、十分議論されていない内容を環境省に漏らしたことについては「身内意識のようなものがあり、緊張感を欠いていた」としています。

そのうえで、透明性の観点から、今後、いまは求められていない行政機関とのやりとりについても面談記録を作り公開するかどうか検討する必要があるという認識を示しました。

****

[2] *[特集] 新型コロナウイルス感染症*

[状況]

◇省庁発表

・新型コロナウイルス感染症の患者等の発生について（検疫）

＜厚生労働省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=E_cuDWFMMLuhL9OBY

・新型コロナウイルス感染症の現在の状況について（令和４年 12 月 27 日版）

＜厚生労働省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=0zfuzaGM8Hth7xJBY

◇コロナ死者、最多 438 人　第８波で増加、感染 20 万人

＜共同通信　2022 年 12 月 27 日＞　https://nordot.app/980435854021410816

◇無症状のコロナ陽性者の動向、100 万人を分析　有症状者と高い相関

＜朝日新聞　2022 年 12 月 28 日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDR6KKXQDQUTFL00X.html

国内の約 100 万人分の唾液（だえき）を検査し、新型コロナウイルスの無症状の感染者の動向を調べた結果を自治医科大や東京大などのチームがまとめた。国内では症状がある人が受けた検査を集計しているため、無症状者のデータは明確ではなかったが、大規模な調査で無症状と有症状の陽性者の陽性率は高い相関があることなどがわかった。

　自治医科大の永井良三学長や、新型コロナ対策を検証する内閣官房の「AI アドバイザリーボード」（委員長・

黒川清政策研究大学院大学名誉教授）の委員らがまとめた。2021 年 2～12 月に内閣官房が 14 都道府県で実施した唾液 PCR 検査のデータを使った。

論文によると、昨春の第 4 波と、昨夏の第 5 波の有症状者と無症状者の陽性率は、いずれも同じ時期に上下しており、相関がみられた。

無症状者の陽性率を年代別にみると、4 波では 20～29 歳、19 歳以下のいずれも約 4 割。一方、5 波では 20～29 歳は 3 割に対し、19 歳以下は 8 割と高かった。ワクチン接種率が低い年代ほど無症状者の陽性率が高い傾向も出ており、5 波では 1、2 回目の接種がまだ若い世代に広がっていないことが理由とみられた。

さらに、唾液に含まれるウイ…

****

[3] 化学物質の環境リスク初期評価（第21次取りまとめ）の結果について

＜環境省　2022年12月27日＞　https://www.env.go.jp/press/press_01003.html

１．環境省は、化学物質による環境汚染を通じて、人の健康や生態系に好ましくない影響が発生することを未然に防止するため、科学的な知見に基づいて、多数の化学物質の中から相対的に環境リスクが大きいと想定される物質をスクリーニング（抽出）する環境リスク初期評価を実施しています。

２．このたび、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会の審議を踏まえ、「環境リスク初期評価（第21 次取りまとめ）」の結果を公表します。

３．本取りまとめの結果、生態リスク初期評価において１物質（ジクロルボス）について「詳細な評価を行う候補」とされました。

４．「詳細な評価を行う候補」とされた物質については、関係部局等との連携の下で、詳細な評価の実施を含めた対応を図ることとしています。

１．はじめに

現代の社会においては、様々な産業活動や日常生活に多種多様な化学物質が利用され、私たちの生活に利便を提供しています。また、物の焼却等に伴い非意図的に発生する化学物質もあります。これらの化学物質の中には、人の健康及び生態系に対する有害性を持つものが多数存在しており、適切に取り扱われなければ、環境汚染を通じて人の健康や生態系に好ましくない影響を及ぼすおそれがあります。

このような悪影響の発生を未然に防止するためには、こうした化学物質が、大気、水、土壌等の環境媒体を経由して環境の保全上の支障を生じさせる蓋然性（以下「環境リスク」という。）について、科学的な観点から定量的な検討と評価を行い、その結果に基づいて、必要に応じ、環境リスクを低減させるための対策を進めていく必要があります。

このため、まず、科学的な知見に基づいて、多数の化学物質の中から相対的に環境リスクが大きいと想定される物質をスクリーニング（抽出）し、その上でより詳細なリスク評価を行う必要があります。環境省では、この最初のステップを環境リスク初期評価と位置付けています。

２．環境リスク初期評価について

（１）実施主体

環境省環境保健部環境リスク評価室では、平成９年度から化学物質の環境リスク初期評価に着手し、国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域の協力の下、その結果をこれまで20次にわたり取りまとめ、「化学物質の環境リスク評価」（第１巻～第20巻）として公表しています。

この環境リスク初期評価の結果の取りまとめに当たっては、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において審議されています。

（２）評価結果の活用

環境リスク初期評価において、「詳細な評価を行う候補」及び「関連情報の収集が必要」と評価された物質については、関係部局等との連携と分担の下で、必要に応じた対応（「詳細な評価を行う候補」とされた場合には、より詳細なリスク評価の実施等、「関連情報の収集が必要」とされた場合には継続的な環境濃度の監視、より高感度な分析法の開発等。）を図ることとしています。

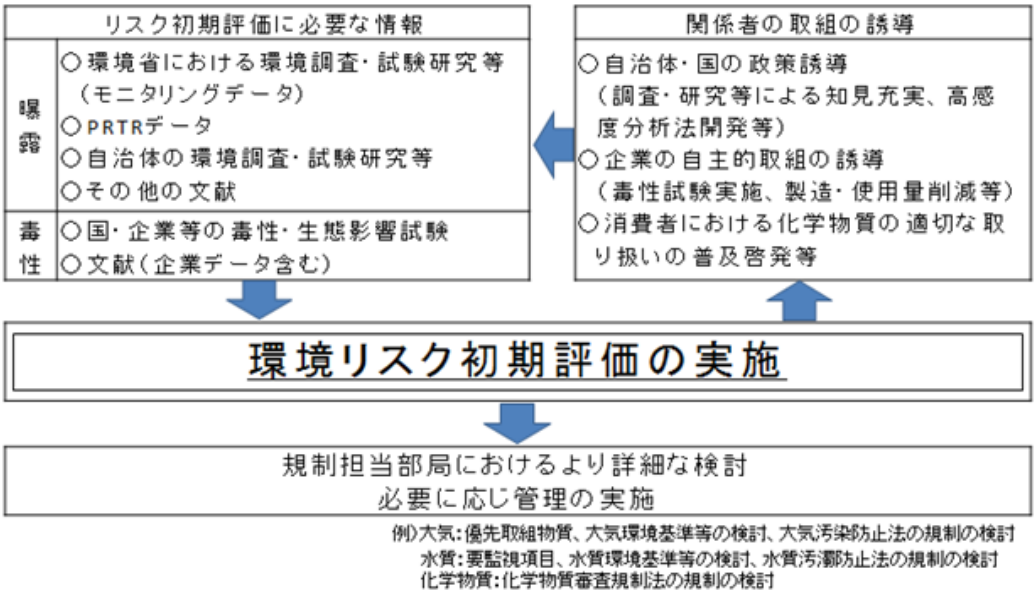

図　環境リスク初期評価による取組の誘導と化学物質に係る情報の創出

（３）構成

環境リスク初期評価は、人の健康に対するリスク（健康リスク）評価と生態系に対するリスク（生態リスク）評価から成り立っており、以下の３段階を経て、リスクの判定を行っています。

①　有害性評価　　人の健康及び生態系に対する有害性を特定し、用量（濃度）－反応（影響）関係を整理

②　曝露評価　　人及び生態系に対する化学物質の環境経由の曝露量の見積り

③　リスクの初期評価　　有害性評価と曝露評価の結果を考慮

（４）対象物質

非意図的生成物質や天然にも存在する物質を含め、環境省内の関係部局や有識者から、各々の施策や調査研究において環境リスク初期評価を行うニーズのある物質を聴取するとともに、環境モニタリング調査結果において検出率が高かった物質等の中から、有識者の意見等を踏まえ、優先度が高いと判断されたものを選定しています。

（５）評価の方法

化学物質の環境リスク初期評価ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）に基づいて、リスクの判定（具体的には、健康リスク評価、生態リスク評価について、それぞれ以下のとおり実施。）を行うとともに、既存データの解析及び専門的な見地から情報収集の必要性に関する総合的な判定を実施しています。

①リスクの判定

○健康リスク評価

有害性に閾値があると考えられる場合には、無毒性量等を予測最大曝露量（又は予測最大曝露濃度）で除した値（MOE（Margin of Exposure））を求めて判定します。

MOE	判定
10 未満	詳細な評価を行う候補と考えられる。
10 以上 100 未満	情報収集に努める必要があると考えられる。
100 以上	現時点では作業は必要ないと考えられる。
算出不能	現時点ではリスクの判定ができない。

有害性に閾値がないと考えられる場合は、がんの過剰発生率により判定します。

過剰発生率	判定

10^{-5} 以上	詳細な評価を行う候補と考えられる。
10^{-6} 以上 10^{-5} 未満	情報収集に努める必要があると考えられる。
10^{-6} 未満	現時点では作業は必要ないと考えられる。
算出不能	現時点ではリスクの判定ができない。

〇生態リスク評価

予測環境中濃度（PEC）を予測無影響濃度（PNEC）で除したPEC/PNECにより判定します。

PEC/PNEC	判定
１以上	詳細な評価を行う候補と考えられる。
0.1 以上１未満	情報収集に努める必要があると考えられる。
0.1 未満	現時点では作業は必要ないと考えられる。
情報不十分	現時点ではリスクの判定はできない。

②情報収集の必要性に関する総合的な判定

リスクの判定結果を踏まえつつ、化学物質の製造量、用途、物性、化学物質排出把握管理促進法による届出排出量を用いたモデル等による環境濃度の推定結果等の関連情報に基づいて、専門的な観点から、更なる情報収集の必要性について総合的な判定を実施します。

なお、初期評価を実施する際には、その趣旨に鑑み、環境リスクが高い物質を見逃してしまうことのないよう、有害性評価においては複数の種について毒性データを活用し、より低用量で影響が出たデータを利用する、曝露評価においては原則として検出最大濃度を利用する等、安全性を重視した取扱いを行っています。

３．環境リスク初期評価（第21次取りまとめ）の結果について

（１）対象物質

今回の第21次取りまとめにおいては、環境リスク初期評価（健康リスクと生態リスクの双方を対象とした評価）を８物質について、生態リスク初期評価を４物質について、それぞれ取りまとめました。

今回の第21次取りまとめによって、これまでに313物質の環境リスク初期評価と100物質の生態リスク初期評価が取りまとめられたことになります。

（２）結果

①環境リスク初期評価（健康リスクと生態リスクの双方を対象とした評価）

対象とした８物質の環境リスク初期評価の結果を、今後の対応の観点から整理すると、以下のとおりです。

評価結果	健康リスク初期評価	生態リスク初期評価
A. 詳細な評価を行う候補	【０物質】	【１物質】 ・ジクロルボス
B. 更なる関連情報の収集が必要	【１物質】 吸入曝露（一般環境大気） ・3,3’-ジクロロ-4,4’-ジアミノジフェニルメタン* 経口曝露 ・3,3’-ジクロロ-4,4’-ジアミノジ	【２物質】 ・シアナミド ・メチルアミン*

	フェニルメタン*	
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	【７物質】 ・2,3-エポキシプロピル=フェニルエーテル ・シアナミド ・ジクロルボス ・ジメチルジスルフィド ・トリエチレンテトラミン ・メタクリル酸2-エチルヘキシル ・メチルアミン	【５物質】 ・2,3-エポキシプロピル=フェニルエーテル ・3,3’-ジクロロ-4,4’-ジアミノジフェニルメタン ・ジメチルジスルフィド ・トリエチレンテトラミン ・メタクリル酸2-エチルヘキシル

＊既存の関連情報を総合的に勘案して判断し更なる関連情報の収集に努める必要があると判定した物質。すなわち、２．（５）①のMOEや過剰発生率、PEC/PNEC比では「現時点では作業は必要ないと考えられる」又は「現時点ではリスクの判定ができない」となったが、既存データの解析及び専門的な見地から総合的に判断して、更なる関連情報の収集が必要と判定した物質。詳細は評価書本文を参照。

②追加的に実施した生態リスク初期評価

対象とした４物質の生態リスク初期評価結果を、今後の対応の観点から整理すると、以下のとおりです。

評価結果	生態リスク初期評価
A. 詳細な評価を行う候補	【０物質】
B. 更なる関連情報の収集が必要	【３物質】 ・カルバマゼピン* ・ケトプロフェン ・ベザフィブラート
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い	【１物質】 ・クロミプラミン

＊既存の関連情報を総合的に勘案して判断し更なる関連情報の収集に努める必要があると判定した物質。すなわち、２．（５）①のMOEや過剰発生率、PEC/PNEC比では「現時点では作業は必要ないと考えられる」又は「現時点ではリスクの判定ができない」となったが、既存データの解析及び専門的な見地から総合的に判断して、更なる関連情報の収集が必要と判定した物質。詳細は評価書本文を参照。

４．今後の対応について

（１）結果の公表

○　環境リスク初期評価の結果は、「化学物質の環境リスク初期評価：第21巻」として取りまとめるとともに、インターネット上で公表します（下記アドレス参照。）。

http://www.env.go.jp/chemi/risk/index.html

○　また、環境リスク初期評価から得られた科学的知見を、一般消費者は日常生活において、企業は経済活動において、より容易に活用することができるよう、物質ごとの初期評価の結果の要約を作成し、インターネット上で公表します。

（２）関係部局等との連携

○　「詳細な評価を行う候補」とされた化学物質については、規制当局である関係部局、自治体等へ評価結果の情報提供を行い、緊密な連携を図ることにより、各主体における取組（例：詳細なリスク評価の実施、環境調査の実施、より詳細な毒性情報の収集等）への活用を図ることとしています。

また、「更なる関連情報の収集が必要」とされた化学物質については、個々の評価の内容を踏まえて関係部局との連携等を確保し、環境中の存在状況や有害性に係る知見等の充実を図ることとしています。

（３）環境リスク初期評価の再実施

環境リスク初期評価は、多数の化学物質の中から相対的に環境リスクが大きいと想定される物質のリスク評価を行う最初のステップと位置付けられています。そのため、これまで曝露又は有害性情報等が不足し、評価を行うことができなかった物質（例えば、「更なる関連情報の収集が必要」とされた物質等）や新たな情報により評価結果が変更となる物質等については、新たに情報を収集の上、環境リスク初期評価の対象物質とすることについて検討します。

なお、改めて環境リスク初期評価を行った結果は、逐次公表します。

（４）今後の課題・評価対象物質

○　ガイドラインについて、OECD等における試験法及び評価手法に関する検討状況を把握し、新たな知見等を踏まえて、今後も必要に応じて見直しを図ります。

○　QSAR（定量的構造活性相関）については、生態リスク初期評価においてQSAR予測や類似物質によるリードアクロス（類推）を活用するとともに、生態毒性に関する試験によって得られた実験値が不足している場合に専門家による総合的な判定の根拠の一つとして評価事例を積み重ねていきます。

○　今後の評価対象物質は、引き続き、環境省内の関係部局等からのニーズや、環境モニタリングにおける検出状況等を踏まえ、有識者の意見等を踏まえて優先度が高いと考えられるものを選定していきます。

選定に当たっては、諸外国における評価手法の動向を踏まえつつ、環境中に存在する医薬品等、非意図的に生成される物質、天然物がそのまま抽出等されて利用される物質等といった化学物質審査規制法によるリスク評価の対象となっていない物質や、用途が多岐にわたるため、用途毎の規制法の下では環境リスクの全体像の把握が困難と考えられる物質に、特に留意する必要があります。

関連情報
関連Webページ
化学物質の環境リスク初期評価関連
https://www.env.go.jp/chemi/risk/index.html
過去の報道発表資料
令和３年12月21日
化学物質の環境リスク初期評価（第20次取りまとめ）の結果について
https://www.env.go.jp/press/110324.html

****

[4] 労働安全衛生法第五十七条の四第三項の規定に基づき新規化学物質の名称を公表する件（厚生労働省告示第373号）

［官報］　令和４年12月27日　号外　第278号　11～19頁

https://kanpou.npb.go.jp/20221227/20221227g00278/20221227g002780011f.html

○厚生労働省告示第373号

労働安全衛生法（昭和四十七年法律第五十七号）第五十七条の四第一項に規定する新規化学物質について同項の規定による届出があったので、同条第三項の規定に基づき、その名称を次のとおり公表する。

令和４年12月27日　　厚生労働大臣　　加藤　勝信

通し番号	名　　称	整理番号
30438	亜硝酸と２－アミノエタン－１－オールと［２－アミノエタン－１－オールとジアンミンジ（ニトリト－κN）パラジウムの反応生成物］とアンモニアの混合物	1-(1)-830
30439	アジリジン・［２，２’－ジアゼンジイルビス（２－メチルプロパンニトリル）を開始剤とする、エテニルベンゼン・ブチル＝プロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物］重付加物	9-4088
30440	アジリジン・(ブチル＝プロパ－２－エノアート・ブチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物）重付加物	9-4089
30441	アジリジン・(２－メチルプロパ－２－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物）重付加物	9-4090
30442	（２Ｒ）－4－アミノ－２－クロロブタン酸	2-(4)-1367
30443	（２Ｓ）－２－アミノ－Ｎ－（２，２－ジエトキシエチル）－Ｎ－（{６－［３－（４－エチルピベラジン－１－イル）アゼチジン－１－イル］ピリジン－２－イル}メチル）－３－｛２－フルオロ－４－［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］フェニル}プロパンアミド	8-(2)-2964
30444	（１Ｒ，３Ｓ）－３－アミノシクロペンタン－１－オール	3-(3)-229
30445	｛α－［(３－アミノプロピル）ジ（メチル）シリル］－ω－（３－アミノプロピル）ポリ［オキシ（ジメチルシランジイル)］・５，５’－オキシビス（２－ベンソフラン－13－ジオン)・３，３’－スルホニルジアニリン・４，４’－スルホニルジアニリン重縮合物}・［５，５’－オキシビス（２－ベンソフラン－13－ジオン)・３，３’－スルホニルジアニリン・４，４’－スルホニルジアニリン重縮合物］・３，３’－スルホニルジアニリン・４，４’－スルホニルジアニリン重付加物	10-4248
30446	｛α－［(３－アミノプロピル）ジ（メチル）シリル］－ω－（３－アミノプロピル）ポリ［オキシ（ジメチルシランジイル)］・５，５’－オキシビス（２－ベンソフラン－13－ジオン)・３，３’－スルホニルジアニリン・４，４’－スルホニルジアニリン重縮合物}と［５，５’－オキシビス（２－ベンソフラン－13－ジオン)・３，３’－スルホニルジアニリン・４，４’－スルホニルジアニリン重縮合物］の混合物	10-4249
30447	（Ｄ－アラビニトールと（３Ｒ）－３，５－ジヒドロキシ－３－メチルペンタン酸）を主成分とする，Saccharomycopsis fibuligera によるＤ－グルコースの発酵生成物	11-(4)-1007
30448	（アントラセン－９－イル）メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・エタン－12－ジイル＝６－ヒドロキシナフタレン－２－カルボキシラート＝２－メチルプロパ－２－エノアート・(12，14－ジオキソ－12，13，14，15－テトラヒドロ－11Ｈ－９，10－［３，４］エピピロロアントラセン－９（10Ｈ）－イル）メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・１Ｈ－ピロール－２，５－ジオン・tert－ブチル＝プロパ－２－エノアート共重合物	9-4091
30449	（アンモニウム＝α－｛１－（アルキル（Ｃ＝10．12、直鎖型及び分枝型)）－２－［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］エチル}－ω－（スルホナトオキシ）ポリ（オキシエタン－12－ジイル）を主成分とするコ（アルキル（Ｃ＝10．12、直鎖型及び分枝型)）オキシランとオキシランとプロパ－２－エン－１－オールの反応生成物］とスルファミン酸の反応生成物)・［アンモニウム＝α－｛１－（アルキル（Ｃ＝10～14、分枝型）オキシ）－３－［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］プロパン－２－イル}－ω－（スルホナトオキシ）ポリ（オキシエタン－12－ジイル）	9-4092

	を主成分とする，（アルカノール（C＝10〜14、分枝型）とに（プロパ‐２‐エン‐１‐イル）オキシ］メチル｝オキシランの反応生成物）・オキシラン重付加物の硫酸エステル化反応生成物のアンモニウム塩］・２‐エチル‐２‐{［（プロパ‐２‐エノイル）オキシ］メチル｝プロパン‐13‐ジイル＝ジ（プロパ‐２‐エノアート）・２‐エチルヘキシル＝プロパ‐２‐エノアート・オキシラニルメチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・シクロヘキシル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・{［３‐（トリメトキシシリル）プロピル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアートの加水分解反応生成物］重縮合物｝・ナトリウム＝４‐エテニルベンゼン‐１‐スルホナート・２‐ヒドロキシエチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・２‐ヒドロキシプロパン‐13‐ジイル＝ビス（２‐メチルプロパ‐２‐エノアート）・３‐ヒドロキシプロパン‐12‐ジイル＝ビス（２‐メチルプロパ‐２‐エノアート）・２‐ヒドロキシプロパン‐１，３‐ジイル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート＝プロパ‐２‐エノアート・３‐ヒドロキシプロパン‐１，２‐ジイル＝１‐（２‐メチルプロパ‐２‐エノアート）＝２‐（プロパ‐２‐エノアート）・ブチル＝プロパ‐２‐エノアート・ブチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・プロパ‐２‐エンアミド・プロパ‐２‐エン酸・２‐メチルプロパ‐２‐エン酸・メチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート共重合物	
30450	アンモニウム＝４‐ヒドロキシベンゼン‐１‐スルホナート・アンモニウム＝４‐ヒドロキシベンソアート・ホルムアルデヒド重縮合物	10-4250
30451	１‐イソシアナト‐２‐［(４‐イソシアナトフェニル）メチル］ベンゼン・２‐イソシアナトエチル＝プロパ‐２‐エノアート・α‐ヒドロ‐ω‐ヒドロキシポリ［オキシ（メチルエタン‐１，２‐ジイル)］・１，１′‐メチレンビス（２‐イソシアナトベンゼン)・１，１′‐メチレンビス（４‐イソシアナトベンゼン）重付加物	10-4251
30452	２‐イソシアナトエチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアートと｛［４，４‐ジメチル‐２，６‐ジオキサ‐１，７（５）‐ビス（［２］ベンソフラナ）‐３，５（１，４）‐ジベンゼナヘプタファン‐１^{1}，１^{3}，７^{1}，７^{3}‐テトラオンと２‐ヒドロキシエチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアートのエステル化反応生成物≫２，２’‐ジメチル［１，１′‐ビフェニル］‐４，４′‐ジアミン重縮合物｝の付加反応生成物	10-4252
30453	２‐（２‐イソシアナトエトキシ）エチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアートと（２‐ヒドロキシエチル＝プロパ‐２‐エノアート・ブチル＝プロパ‐２‐エノアート・メチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート共重合物）の付加反応生成物	9-4093
30454	２‐（ウンデカ‐１０‐エン‐１‐イル）トリデカ‐１２‐エン‐１‐アミン	2-(10)-304
30455	エタン‐１，２‐ジイル＝３，５‐ジアミノベンゾアート＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・テトラヒドロシクロブタ［１，２‐ｃ：３，４‐ｃ‘］ジフラン‐１，３，４，６‐テトラオン・４‐［(３^{4}‐ベンチル‐２^{1}，２^{2}，２^{3}，２^{4}，２^{5}，２^{6}，３^{1}，３^{2}，３^{3}，３^{4}，３^{5}，３^{6}‐ドデカヒドロ［１^{1}，２^{1}，２^{4}，３^{1}‐テルフェニル］‐１^{4}‐イル）オキシ］ベンゼン‐１，３‐ジアミン重付加物	10-4253
30456	４，４′‐（エタン‐１，１‐ジイル）ジフェノール・カルボニル＝ジクロリド・４‐tert‐ブチルフェノール・４，４′‐メチレンジフェノール重縮合物	10-4254
30457	（３‐エチルオキセタン‐３‐イル）メチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・(２‐エチル‐２‐メチル‐１，３‐ジオキソラン‐４‐イル）メチル＝プロパ‐２‐エノアート・(７‐オキサビシクロ［４．１．０］ヘプタン‐３‐イル）メチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・オキシラニルメチル＝２‐メチルプロパ‐２‐エノアート・１‐シクロヘキシル‐１Ｈ‐ピロール‐２，５‐ジオン・１‐	9-4094

	フェニル－１万－ピロール－２，５－ジオン・４－（プロパ－１－エン－２－イル）フェノール・２－メチルプロパ－－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物	
30458	（{３－［(３－エチルオキセタン－３－イル）メトキシ］プロピル} トリ（メトキシ）シランとテトラメチル＝シリカードとトリメトキシ（メチル）シランとトリメトキシ｛４－［(２－メチルブタン－２－イル）オキシ］フェニル} シランの加水分解反応生成物）重縮合物	10-4255
30459	２－エチル－２－｛[(プロパ－２－エノイル）オキシ］メチル} プロパン－１，３－ジイル＝ジ（プロパ－２－エノアート)・エテニルベンゼン・２－（ジエチルアミノ）エチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・ベンジル＝プロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸・１－（モルホリン－４－イル）プロパ－２－エン－１－オン共重合物	9-4095
30460	エチル＝［１－（プロパ－２－エン－１－イル）ヒドラジン－１－イル］アセタート	2-(6)-2182
30461	２－エチルヘキシル＝プロパ－２－エノアート・ベンジル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸共重合物	9-4096
30462	エチル＝［２－（ベンジルカルバモイル）－１－（プロパ－２－エン－１－イル）ヒドラジン－１－イル］アセタート	4-(7)-2730
30463	１－エチル＝４－メチル＝２，２－ジフルオロ－３－ヒドロキシ－３－メチルブタンジオアート	2-(6)-2183
30464	１－エチル＝２－メチル＝（２Ｒ）－ピロリジン－１，２－ジカルボキシラート	8-(1)-4605
30465	α－［エテニルジ（メチル）シリル］－ω－エテニルポリ［オキシ（ジメチルシランジイル)］・エテニルトリ（メトキシ）シラン・５，11，14，17－テトラキス［(ジメチルシリル）オキシ］－１，３，５，７，９，11，14，17－オクタフェニルトリシクロ［７．３．３．３^{3,7}］オクタシロキサン・ビス（オキシラニルメチル）（プロパ－２－エン－１－イル）－１，３，５－トリアジナントリオン重付加物	10-4256
30466	４－エテニルフェノール・シクロヘキシル＝プロパ－２－エノアート・tert－ブチル＝プロパ－２－エノアート共重合物	9-4097
30467	オキシラニルメチル＝２－メチルプロパ－２－エノアートと［２，２’－ジアゼンジイルビス（２－メチルブタンニトリル）を開始剤とする，シクロヘキシル＝プロパ－２－エノアート・ブチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸共重合物］のエステル化反応生成物	9-4098
30468	オキシラニルメチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・(ブタ－１，３－ジエン重合物)・ブチル＝プロパ－２－エノアート・メチル＝プロパ－２－エノアート共重合物	9-4099
30469	１－オキソオクタヒドロ－４，７－メタノ－２－ベンゾフラン－５－イル＝ホルマートと３－オキソオクタヒドロ－４，７－メタノ－２－ベンソフラン－５－イル＝ホルマートと（３ａ，４，７，７ａ－テトラヒドロ－４，７－メタノ－２－ベンゾフラン－１（３Ｈ）－オンの二量体化及び三量体化反応生成物）と５－ヒドロキシヘキサヒドロ－４，７－メタノ－２－ベンゾフラン－１（３Ｈ）－オンと６－ヒドロキシヘキサヒドロ－４，７－メタノ－２－ベンゾフラン－１（３Ｈ）－オンの混合物	8-(4)-2211
30470	（９Ｚ）－オクタデカ－９－エン－１－イル＝３－オキソブタノアート	2-(6)-2184
30471	オクタデシル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－（ジメチルアミノ）エチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロ	9-4100

	パ－２－エノアート・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノア－ト・α－メチル－ω－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］ポリ（オキシエタン－１，２－ジイル）共重合物	
30472	オクタトリアコンタフルオロオクタデカンとドテトラコンタフルオロイコサン（主成分）とヘキサテトラコンタフルオロドコサンとペンタコンタフルオロテトラコサンの混合物	2-(13)-336
30473	１，３，５，７，９，11，14，17－オクタフェニルトリシクロ［７．３．３．３^{3,7}］オクタシロキサン－５，11，14，17－テトラオール	8-(9)-196
30474	オクタメチル－１，３，５，７，２，４，６，８－テトラオキサテトラシロカン・１，３－ジエテニル－１，１，３，３－テトラメチルジシロキサン・９，１９－ジメチル－１，３，５，７，11，13，15，17－オクタフェニルベンタシクロ［11．７．１^{3,11}，１^{5,17}．１^{7,15}］デカシロキサン－９，１９－ジオール重縮合物	10-4257
30475	オクタメチル－１，３，５，７，２，４，６，８－テトラオキサテトラシロカン・９，19－ジメチル－１，３，５，７，11，13，15，17－オクタフェニルベンタシクロ［１１．７．１．１^{3,11}．１$^{5\cdot17}$．１$^{7\cdot15}$］デカシロキサン－９，１９－ジオール重縮合物	10-4258
30476	カルシウム＝デカンジオアート	2-(4)-1368
30477	カルシウム＝ビス［10－（オクタデシルアミノ）－10－オキソデカノアート］	2-(4)-1369
30478	カルシウム＝ビス｛４－［３，６－ビス（４－tert－ブチルフェニル）－１，４－ジオキソ－４，５－ジヒドロピロロ［３，４－ｃ］ピロール－２（１Ｈ）－イル］ブタン－１－スルホナート｝	8-(1)-4606
30479	［４－（Ｓ）－カルバソール－９－イル）フェニル］（フェニル）メタノン	8-(1)-4607
30480	５－クロロ－２－（２－｛３－［(５－クロロ－１－エチル－３，３－ジメチル－１，３－ジヒドロ－２Ｈ－インドール－２－イリデン）エチリデン］－２－（ジフェニルアミノ）シクロペンタ－１－エン－１－イル｝エテン－１－イル）－１－エチル－３，３－ジメチル－3Ｈ－インドール－１－イウム＝テトラフェニルボラヌイド	8-(1)-4608
30481	［クロロ（ジメチルアミノ）メチリデン］ジ（メチル）アザニウム＝ヘキサフルオロ－λ^{5}－ホスファヌイド	2-(2)-335
30482	４－［(Ｓ）－（４－クロロフェニル）（ピリジン－２－イル）メトキシ］ピペリジン－１－イウム＝（２Ｒ，３Ｒ）－３－カルボキシ－２，３－ジヒドロキシプロパノアート	8-(1)-4609
30483	（クロロメチル）オキシランと［１，２－ビス（クロロメチル）ベンゼン・フェノール重縮合物］の反応生成物	10-4259
30484	［(クロロメチル）オキシラン・｛［(ヒドロキシフェニル）メチル］フェノールを主成分とする，フェノールとホルムアルデヒドの反応生成物｝重縮合物］と２－メチル－１Ｈ－イミダゾールの反応生成物	10-4260
30485	［(クロロメチル）オキシラン・４，４'－（プロパン－２，２－ジイル）ジフェノ－ル重縮合物］と１Ｈ－１，２，４－トリアゾール－３－アミンの付加反応生成物	10-4261
30486	三カリウム＝４－［(４－アミノ－６－スルホナトナフタレン－１－イル）ジアゼニル］－５－［(４－ニトロベンゼン－１－スルホニル）オキシ］ナフタレン－２，７－ジスルホナートを主成分とする，８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と｛ニナトリウム＝４－アミノ－５－［(４－ニトロベンゼン－１－スルホニル）オキシ］ナフタレン－２，７－ジスルホナ－トのジアゾ化反応生成物｝の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩の混合物	5-1581
30487	三ナトリウム＝２－ヒドロキシプロパン－１，２，３－トリカルボキシラート－水	12-1225

	（１／２）と四酸化鉄（Ⅱ）二鉄（Ⅲ）と硝酸ナトリウムと水酸化ナトリウムと硫酸コバルト（Ⅱ）一水（１／７）と硫酸鉄（Ⅱ）一水（１／７）の反応生成物から［四酸化コバルト（Ⅱ）二鉄（Ⅲ）と四酸化鉄（H）二鉄（Ⅲ）からなる固相］を固液分離して得られるろ液	
30488	２，２'－ジアゼンジイルビス（２，４－ジメチルペンタンニトリル）を開始剤とするコアンモニウム＝α－｛１－（アルキル（C＝10～14、分枝型）オキシ）－３－［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］プロパン－２－イル｝－ω－（スルホナトオキシ）ポリ（オキシエタン－１，２－ジイル）を主成分とする，（アルカノール（C＝10～14、分枝型）と｛[(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］メチル｝オキシランの反応生成物)・オキシラン重付加物の硫酸エステル化反応生成物のアンモニウム塩]・[(エテニルトリ（メトキシ）シランとトリメトキシ（フェニル）シランとトリメトキシ（メチル）シランとα，α’－［２，５－ビス（エトキシカルボニル）ヘキサン－１，６－ジイル］ビス｛ω－（５－｛６－［ジメトキシ（メチル）シリル］ヘキシル｝－２－オキソオキソラン－３－イル）ポリ［１－（ブトキシカルボニル）エタン－１，２－ジイル]｝の加水分解反応生成物）重縮合物]・ナトリウム＝２－メチル－２－（プロパ－２－エンアミド）プロパン－１－スルホナ－ト・２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・ブチル＝プロパ－２－エノアート・α－［(プロパ－２－エノイル）オキシ］－ω－（１－エトキシ－１－オキソブタン－２－イル）ポリ［１－（ブトキシカルボニル）エタン－１，２－ジイル]・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物	9-4101
30489	２，２'－ジアゼンジイルビス（２－メチルブタンニトリル）及び２，２'－ジアゼンジイルビス（２－メチルプロパンニトリル）を開始剤とする，ベンジル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物	9-4102
30490	２，２'－ジアゼンジイルビス（２－メチルブタンニトリル）を開始剤とする，エテニルトリ（エトキシ）シラン・｛[エテニルトリ（メトキシ）シランとトリメトキシ（フェニル）シランとトリメトキシ（メチル）シランの加水分解反応生成物］重縮合物｝・シクロヘキシル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・３－（トリエトキシシリル）プロピル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・ブチル＝プロパ－２－エノアート・ブチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物	9-4103
30491	２，２'－ジアゼンジイルビス（２－メチルブタンニトリル）を開始剤とする，シクロヘキシル＝プロパ－２－エノアート・ブチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸共重合物	9-4104
30492	２，２'－ジアゼンジイルビス（２－メチルブタンニトリル）を開始剤とする，ベンジル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸共重合物	9-4105
30493	（１R，２S，５S）－N－｛(１S）－１－シアノ－２－［(３５）－２－オキソピロリジン－３－イル］エチル｝－３－［(２５）－３，３－ジメチル－２－（２，２，２－トリフルオロアセトアミド）ブタノイル］－６，６－ジメチル－３－アザビシクロ［３．１．０］ヘキサン－２－カルボキシアミド	8-(1)-4610
30494	３，５－ジアミノ安息香酸・３，５－ジアミノ－N－［(ピリジン－３－イル）メチル］ベンズアミド・テトラヒドロシクロブタ［１，２－c：３，４－c‘］ジフラン－１，３，４，６－テトラオン・テトラヒドロ－１，５：６，10－ジメタノオキ	10-4262

	セピノ［4，５－d］オキセピン－2，4，7，9（1H，5H）－テトラオン・4－［4－（4－ヘプチルシクロヘキシル）フェノキシ］ベンゼン－1，3－ジアミン・1H，3H－ベンソ［1，2－c：4，5－c′］ジフラン－1，3，5，7－テトラオン重付加物	
30495	1，6－ジイソシアナトヘキサン・N^1－（2－ヒドロキシプロピル）－N^3，N^3－ジメチル－N^1－［3－（N－メチルメタンアミニウムイル）プロピル］プロパン－1，3－ビス（アミニウム）＝トリアセタート・α－ヒドロ－ω－ヒドロキシポリ［オキシ（メチルエタン－1，2－ジイル)］－ポリ（オキシエタン－1，2－ジイル）－オキシプロパン－1，3－ジイル（ジメチルシランジイル）－ポリ［オキシ（ジメチルシランジイル)］－プロパン－1，3－ジイル－ポリ（オキシエタン－1，2－ジイル）－ポリ［オキシ（メチルエタン－1，2－ジイル)］・α－ヒドロ－ω－［(プロパ－2－エン－1－イル）オキシ］ポリ［オキシ（メチルエタン－1，2－ジイル)］－ポリ（オキシエタン－1，2－ジイル）重付加物	10-4263
30496	1，3－ジイソシアナト－2－メチルベンゼン・2，4－ジイソシアナト－1－メチルベンゼン・2－ヒドロキシエチル＝プロパ－2－エノアート・α－ヒドロ－ω－ヒドロキシポリ［オキシ（メチルエタン－1，2－ジイル)］・α－ブチル－ω－ヒドロキシポリ［オキシ（メチルエタン－1，2－ジイル)］重付加物	10-4264
30497	1，3－ジエテニル－1，3－ジメチル－1，3－ジフェニルジシロキサン・トリエテニル（フェニル）シラン・Ｓｉ，Ｓｉ’－（1，4－フェニレン）ビス（ジメチルシラン）重付加物	10-4265
30498	2，2－ジエトキシ－N－（{6－［3－（4－エチルピペラジン－1－イル）アゼチジン－1－イル］ピリジン－2－イル} メチル）エタン－1－アミン	8-(2)-2965
30499	3，20－ジオキソ－6β，7β－ジヒドロオキシレノ［2’，3’：6，7］プレグナ－1，4－ジエン－17－イル＝アセタート	8-(4)-2212
30500	3，20－ジオキソプレグナ－1，4，6－トリエン－17－イル＝アセタート	7-(1)-1055
30501	［2，4－ジ（オキソ－κO）ベンタン－3－イド］ビス（1－{［(9Z）－オクタデカ－9－エン－1－イル］オキシ}－1，3－ジ（オキソ－κO）ブタン－2－イド）アルミニウム	1-(1)-831
30502	4，4′－（1，3－ジオキソラン－2，2－ジイル）ジフェノール・二ナトリウム＝3，3′－カルボニルビス（6－フルオロベンゼン－1－スルホナート)・ビス（4－フルオロフェニル）メタノン重縮合物のカリウム及びナトリウム塩	10-4266
30503	4，4′－（1，3－ジオキソラン－2，2－ジイル）ジフェノール・ニナトリウム＝3，3′－カルボニルビス（6－フルオロベンゼン－1－スルホナート)・［1，1′－ビフェニル］－4，4′－ジオール重縮合物のカリウム及びナトリウム塩	10-4267
30504	N－シクロヘキシルシクロヘキサンアミニウム＝（2S）－2－{［(ベンジルオキシ）カルボニル］（メチル）アミノ}－4－tert－ブトキシ－4－オキソブタノアート	3-(4)-846
30505	（4S）－6，8－ジクロロ－4－（3－エチニルフェニル）－2－メチル－1，2，3，4－テトラヒドロイソキノリン	8-(1)-4611
30506	（4S）－6，8－ジクロロ－4－（3－エチニルフェニル）－2－メチル－1，2，3，4－テトラヒドロイソキノリン－2－イウム＝クロリド	8-(1)-4612
30507	（4S）－6，8－ジクロロ－2－メチル－4－{3－［(トリメチルシリル）エチニル］フェニル}－1，2，3，4－テトラヒドロイソキノリン	8-(1)-4613
30508	（4S）－6，8－ジクロロ－2－メチル－4－{3－［(トリメチルシリル）エチニル］フェニル}－1，2，3，4－テトラヒドロイソキノリン－2－イウム＝（2	8-(1)-4614

	R，３R）－３－カルボキシ－２，３－ジヒドロキシプロパノアート	
30509	ジシクロヘキシルメタンジイミンと［4，４－ジメチル－２，６－ジオキサ－１，７（５）－ビス（［2］ベンソフラナ）－３，５（１，４）－ジベンゼナヘプタファン－１[1]，１[3]，７[1]，７[3]－テトラオンと２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロパ－２－エノアートのエステル化反応生成物］の反応生成物	7-(4)-1439
30510	N[1]，N[3]－ジヒドロキシベンゼン－１，３－ジカルボキシイミドイル＝ジシアニド	4-(7)-2731
30511	（７ａR）－１，１－ジフェニルテトラヒドロ－１H，３H－ピロロ［1，２－ｃ］［1，３］オキサアゾール－３－オン	8-(7)-2049
30512	ジ－tert－ブチル＝３，６－ビス（４－tert－ブチルフェニル）－１，４－ジオキソピロロ［3，４－ｃ］ピロール－２，５（1H，４H）－ジカルボキシラート	8-(1)-4615
30513	α－｛1，１－ジフルオロ－５－（トリメトキシシリル）－２－［3－（トリメトキシシリル）プロポキシ］－２－［3－（トリメトキシシリル）プロピル］ベンチル｝－ω－（｛1，１－ジフルオロ－５－（トリメトキシシリル）－２－［3－（トリメトキシシリル）プロポキシ］－２－［3－（トリメトキシシリル）プロピル］ベンチル｝オキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］とα－｛1，１－ジフルオロ－５－（トリメトキシシリル）－２－［3－（トリメトキシシリル）プロポキシ］－２－［3－（トリメトキシシリル）プロピル］ベンチル｝－ω－（トリフルオロメトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］とα－｛1，１－ジフルオロ－５－（トリメトキシシリル）－２－［3－（トリメトキシシリル）プロポキシ］－２－［3－（トリメトキシシリル）プロピル］ベンチル｝－ω－（ベンタフルオロエトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］とα－（トリフルオロメチル）－ω－（トリフルオロメトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］とα－（ベンタフルオロエチル）－ω－（トリフルオロメトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］とα－（ベンタフルオロエチル）－ω－（ベンタフルオロエトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］の混合物	10-4268
30514	α－（1，１－ジフルオロ－２－ヒドロキシエチル）－ω－［1，１，２－トリフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）エトキシ］ポリ［キシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（ヘキサフルオロプロパン－１，３－ジイル）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］－オキシ（1，１－ジフルオロエタン－１，２－ジイル）－ポリ［オキシ（1，１，２－トリフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（1，１，２，２，３，３，４，４，５，５－デカフルオロヘキサン－１，６－ジイル)］を主成分とする，α－（1，１－ジフルオロ－２－ヒドロキシエチル）－ω－（1，１－ジフルオロ－２－ヒドロキシエトキシ）ポリ［オキシ（ジフルオロメチレン）／オキシ（ヘキサフルオロプロパン－１，３－ジイル）／オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル)］と1，１，２，２，３，３，４，４，５，５－デカフルオロ－１－［(トリフルオロエテニル）オキシ］－６－［1，１，２－トリフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）エトキシ］ヘキサンとα－｛2，２，３，３，４，４，５，５，６，６－デカフルオロ－６－［(トリフルオロエテニル）オキシ］ヘキシル｝－ω－［1，１，２－トリフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）エトキシ］ポリ［オキシ（1，１，２－トリフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（1，１，２，２，３，３，４，４，５，５－デカフルオロヘ	10-4269

	キサン－１，６－ジイル)］の反応生成物	
30515	９，19－ジメチル－１，３，５，７，11，13，15，17－オクタフェニルベンタシクロ［11．７．１．$1^{3,11}$．$1^{5,17}$．$1^{7,25}$］デカシロキサン－９，19－ジオール	8-(9)-197
30516	ジメチル＝２，２′－ジアゼンジイルビス（２－メチルプロパノアート）を開始剤とする，１－（２－オキソオキソラン－３－イル）シクロヘキシル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－オキソオキソラン－３－イル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・１－メチルシクロペンチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート共重合物	9-4106
30517	［６－（４，４－ジメチルシクロヘキサ－１－エン－１－イル）－２－メチルチエノ［２，３－ｄ］ピリミジン－４－イル］メタノール	8-(2)-2966
30518	４，４－ジメチルシクロヘキサン－１－オン	3-(4)-847
30519	６－（１，３－ジメチルシクロヘキシル）ヘキサン－３－オールと１－（２，２，６－トリメチルシクロヘキシル）ベンタン－３－オールと３－メチル－４－（２，２，６－トリメチルシクロヘキシル）ブタン－２－オールの混合物	3-(4)-848
30520	［６－（４，４－ジメチルシクロヘキシル）－２－メチルチエノ［２，３－ｄ］ピリミジン－４－イル］メタノール	8-(2)-2967
30521	４－｛［６－（４，４－ジメチルシクロヘキシル）－２－メチルチエノ［２，３－ｄ］ピリミジン－４－イル］メチル｝－１λ^{6}－チオモルホリン－１，１－ジオン	8-(7)-2050
30522	［６－（４，４－ジメチルシクロヘキシル）－２－メチルチエノ［２，３－ｄ］ピリミジン－４－イル］メチル＝メタンスルホナート	8-(2)-2968
30523	｛［(２，２－ジメチルプロパン－１，３－ジオール・ジメチル＝ベンゼン－１，４－ジカルボキシラート・ヘキサンニ酸重縮合物)・３－ヒドロキシ－２－（ヒドロキシメチル）－２－メチルプロパン酸・α－（６－ヒドロキシヘキシル）－ω－ヒドロキシポリ（オキシカルボニルオキシヘキサン－１，６－ジイル)・α－ヒドロ－ω－メトキシポリ（オキシエタン－１，２－ジイル)・(ブタン－１，４－ジオール・ヘキサンニ酸重縮合物)・１，１′－メチレンビス（４－イソシアナトシクロヘキサン）重付加物］・３－（トリエトキシシリル）プロパン－１－アミン・ヒドラジン重付加物の加水分解反応生成物｝重縮合物	10-4270
30524	（４Ｚ）－２，４－ジメチル－５－（４－メチルフェニル）ベンダ－４－エナールと（４Ｅ）－２，４－ジメチル－５－（４－メチルフェニル）ベンダ－４－エナールの混合物	4-(10)-1523
30525	［４，４－ジメチル－1^{3}，7^{3}－（｛２－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］エトキシ｝カルボニル）－２，６－ジオキサ－１，７（1)，３，５（１，４）－テトラベンゼナヘプタファン－1^{4}，7^{4}－ジカルボン酸と４，４－ジメチル－1^{4}，7^{3}－（｛２－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］エトキシ｝カルボニル）－２，６－ジオキサ－１，７（1)，３，５（１，４）－テトラベンゼナヘプタファン－1^{3}，7^{4}－ジカルボン酸と４，４－ジメチル－1^{4}，7^{4}－（｛２－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］エトキシ｝カルボニル）－２，６－ジオキサ－１，７（1)，３，５（１，４）－テトラベンゼナヘプタファン－1^{3}，7^{3}－ジカルボン酸］を主成分とする，４，４－ジメチル－２，６－ジオキサ－１，７（５）－ビス（［２］ベンゾフラナ）－３，５（１，４）－ジベンゼナヘプタファン－1^{1}，1^{3}，7^{1}，7^{3}－テトラオンと２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロパ－２－エノアートのエステル化反応生成物	7-(4)-1440
30526	１，１－ジメトキシシクロドデカン	3-(5)-58
30527	十九酸化八バリウム二カルシウム六鉄（Ⅲ）	1-(3)-488

30528	シュウ酸‐Ｎ‐［(６‐ブロモピリジン‐２‐イル）メチル］‐２，２‐ジエトキシエタン‐１‐アミン（１／１）	8-(1)-4616
30529	３‐スルファニルプロパン酸と｛［３‐（トリメトキシシリル）プロピル＝プロパ‐２‐エノアートの加水分解反応生成物］重縮合物｝の付加反応生成物	10-4271
30530	３‐スルファニルプロピル基及びヒドロキシ基を有する，二酸化ケイ素	12-1226
30531	１，１，２，２，３，３，４，４，５，５‐デカフルオロ‐１‐［(トリフルオロエテニル）オキシ］‐６‐［１，１，２‐トリフルオロ‐２‐（ヘプタフルオロプロポキシ）エトキシ］ヘキサンとα‐｛２，２，３，３，４，４，５，５，６，６‐デカフルオロ‐６‐［(トリフルオロエテニル）オキシ］ヘキシル｝‐ω‐［１，１，２‐トリフルオロ‐２‐(ヘプタフルオロプロポキシ) エトキシ］ポリ［オキシ（１，１，２‐トリフルオロエタン‐１，２‐ジイル）オキシ（１，１，２，２，３，３，４，４，５，５‐デカフルオロヘキサン‐１，６‐ジイル)］の混合物	10-4272
30532	２，２，３，３，４，４，５，５，６，６‐デカフルオロ‐６‐［(トリフルオロエテニル）オキシ］ヘキサン‐１‐オール	2-(8)-930
30533	｛テトラエチル＝シリカードとトリメトキシ［３‐（オキシラニルメトキシ）プロピル］シランの加水分解反応生成物｝重縮合物	10-4273
30534	［テトラエチル＝シリカードと３‐（トリメトキシシリル）プロパン‐１‐アミンの加水分解反応生成物］重縮合物	10-4274
30535	テトラキス［２，４‐ジ（オキソ‐κＯ）ペンタン‐３‐イド］ジルコニウムとトリス（アルキル（Ｃ＝10、分枝型)）＝ボラードと［ポリ（ジメチルシランジイル）の分解反応生成物］の反応生成物	10-4275
30536	｛テトラキス［２，４‐ジ（オキソ‐κＯ）ペンタン‐３‐イド］ジルコニウムとトリス（アルキル（Ｃ＝10、分枝型)）＝ボラードとポリ（ジメチルシランジイル）の分解反応生成物］の反応生成物｝の酸化熱処理により得られる不融化物	12-1227
30537	｛テトラメチル＝シリカードとトリメトキシ［３‐（オキシラニルメトキシ）プロピル］シランと３‐［３‐（トリメトキシシリル）プロポキシ］プロパン‐１，２‐ジオールとトリメトキシ（メチル）シランの加水分解反応生成物｝重縮合物	10-4276
30538	Ｓ，Ｓ’，Ｓ”‐［(トリオキソ‐１，３，５‐トリアジナン‐３，５‐トリイル）トリ（プロパン‐３，１‐ジイル)］＝トリエタンチオアートを主成分とする，エタンチオＳ‐酸とトリ（プロパ‐２‐エン‐１‐イル）‐１，３，５‐トリアジナントリオンの反応生成物	8-(3)-1586
30539	４‐（トリクロロメチル）ベンゾニトリル	4-(7)-2732
30540	トリス（６‐イソシアナトヘキシル）‐１，３，５‐トリアジナントリオン・１，３‐ビス（イソシアナトメチル）シクロヘキサン・２‐ヒドロキシエチル＝プロパ‐２‐エノアート・α‐（４‐ヒドロキシブチル（又は３‐ヒドロキシ‐２‐メチルプロピル)）‐ω‐ヒドロキシポリ［オキシカルボニルオキシブタン‐１，４‐ジイル／オキシカルボニルオキシ（２‐メチルプロパン‐１，３‐ジイル)］・プロパン‐１，３‐ジオール重付加物	10-4277
30541	トリス［４‐（エテニルオキシ）ブチル］＝ベンゼン‐１，２，４‐トリカルボキシラート	4-(7)-2733
30542	トリス（３‐スルファニルプロピル）‐１，３，５‐トリアジナントリオンを主成分とするコエタンチオター酸とトリ（プロパ‐２‐エン‐１‐イル）‐１，３，５‐トリアジナントリオンの付加反応生成物］の反応生成物	8-(3)-1587
30543	トリス｛Ｎ１^{4}，N11^{4}‐ビス（２，６‐ジメチルフェニル）‐Ｎ１^{4}，N11^{4}‐ジエチル‐２，１０‐ビス［４‐（Ｎ‐エチル‐２，６‐ジメチルアニリノ）フェニル］	7-(4)-1441

	－５^{2}，５^{6}，７^{3}，７^{5}－テトラメチル－４，８－ジアザ－３，９（１，４）－ジナフタレナ－５，７（１，４）－ジベンゼナ－１，11（１）－ジシクロヘキサナウンデカファン－11（２），１^{2}，１^{5}，10（11^{1}），11^{2}，11^{5}－ヘキサエン－１^{4}，11^{4}－ビス（イミニウム）｝＝ビス［テトラコンタオキシド（リン十二タングステン）アート］	
30544	トリス（４－フルオロフェニル）スルファニウム＝２－（２，２－ジフェニルヘキサヒドロ－２Ｈ－４，７－メタノ－１，３－ベンゾジオキソール－５－イル）－１，１，２，２－テトラフルオロエタン－１－スルホナート	8-(5)-551
30545	トリフェニルスルファニウム＝２－［８^{1}－エチル－６－オキソ－２^{3a}，２^{4}，２^{5}，２^{6}，２^{7}，２^{7a}－ヘキサヒドロ－４，７－ジオキサ－２（２，２）－［４，７］メタノ［１，３］ベンソジオキソラ－１（１），３（１，４）－ジベンゼナ－８（１）－シクロペンタナオクタファン－２^{5}－イル］－１，１，２，２－テトラフルオロエタン－１－スルホナート	8-(5)-552
30546	１，７，７－トリメチルビシクロ［２．２．１］ヘプタン－２，３－ジオン	7-(2)-400
30547	２，３，３－トリメチル－１－（プロパン－２－イル）－３Ｈ－インドール－１－イウム＝ヨージド	8-(1)-4617
30548	Ｎ，Ｎ，Ｎ－トリメチル－３－（２－メチルプロパ－２－エンアミド）プロパン－１－アミニウム＝クロリド・プロパ－２－エン酸・メチル＝プロパ－２－エノアート共重合物のナトリウム塩	9-4107
30549	ナトリウム＝４－ヒドロキシベンゼン－１－スルホナート・ナトリウム＝４－ヒドロキシベンソアート・ホルムアルデヒド重縮合物	10-4278
30550	二カリウム＝１，５－ジヒドロキシナフタレン－２，６－ジスルホナート	5-1582
30551	二カリウム＝１，５－ジヒドロキシベンタン－１，５－ジスルホナート	2-(4)-1370
30552	二酸化ケイ素のケイ素原子をアルミニウム原子で置換した固溶体のカリウム塩（$Al_xNa_xSi_{1-x}O_2$）	1-(3)-489
30553	二酸化ケイ素のケイ素原子をアルミニウム原子で置換した固溶体のナトリウム塩（$Al_xNa_xSi_{1-x}O_2$）	1-(3)-490
30554	二窒化マグネシウムケイ素	1-(3)-491
30555	二ナトリウム＝４－アミノ－５－［（４－ニトロベンゼン－１－スルホニル）オキシ］ナフタレン－２，７－ジスルホナート	5-1583
30556	１，２－ビス（クロロメチル）ベンゼン・フェノール重縮合物	10-4279
30557	Ｎ１^{4}，N11^{4}－ビス（２，６－ジメチルフェニル）－Ｎ１^{4}，N11^{4}－ジエチル－２，10－ビス［４－（Ｎ－エチル－２，６－ジメチルアニリノ）フェニル］－５^{2}，５^{6}，７^{3}，７^{5}－テトラメチル－４，８－ジアザ－３，９（１，４）－ジナフタレナ－５，７（１，４）－ジベンゼナ－１，１（１）－ジシクロヘキサナウンデカファン－１^{1}（２），１^{2}，１^{5}，10（11^{1}），11^{2}，11^{5}－ヘキサエン－１^{4}，11^{4}－ビス（イミニウム）＝ジクロリド	7-(4)-1442
30558	［（２Ｓ，３Ｓ）－２，３－ビス（ベンゾイルオキシ）ブタン二酸と４－（３－ブロモフェニル）－６，８－ジクロロ－２－メチル－１，２，３，４－テトラヒドロイソキノリン－２－イウム＝クロリドの反応生成物］の（４Ｓ）－４－（３－ブロモフェニル）－６，８－ジクロロ－２－メチル－１，２，３，４－テトラヒドロイソキノリン－２－イウム＝（２Ｓ，３Ｓ）－２，３－ビス（ベンゾイルオキシ）－３－カルボキシプロパノアート晶出物のろ過により得られるろ液	12-1228
30559	４－ヒドロキシ安息香酸・４－ヒドロキシベンゼン－１－スルホン酸・ホルムアルデヒド重縮合物	10-4280
30560	（１Ｒ，３Ｅ，４Ｓ）－３－（ヒドロキシイミノ）－１，７，７－トリメチルビシ	7-(2)-401

	クロ［２．２．１］ヘプタン－２－オン	
30561	２－ヒドロキシエチル＝プロパ－２－エノアート・ブチル＝プロパ－２－エノアート・プロパ－２－エンアミド共重合物	9-4108
30562	２－ヒドロキシエチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・ベンジル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・２－メチルプロパ－２－エン酸共重合物	9-4109
30563	１α－ヒドロキシ－３，20－ジオキソ－２－オキサ－６β，７β－ジヒドロオキシレノ［２’，３’：６，７］プレグナ－４－エン－17－イル＝アセタート	8-(4)-2213
30564	２－［(１Ｓ，３Ｒ）－３－ヒドロキシシクロペンチル］－１Ｈ－イソインドール－１，３（２Ｈ）－ジオン	8-(1)-4618
30565	６－ヒドロキシ－２，６－ジメチルヘプタナール	2-(8)-931
30566	α－（６－ヒドロキシヘキシル（又は５－ヒドロキシ－３－メチルペンチル)）－ω－ヒドロキシポリ［オキシカルボニルオキシヘキサン－１，６－ジイル／オキシカルボニルオキシ（３－メチルペンタン－１，５－ジイル)］・１，１’－メチレンビス（４－イソシアナトベンゼン）重付加物	10-4281
30567	２，２’－[[９，９’－ビフェナントレン］－10，10’－ジイルビス（オキシ)］ジ（エタン－１－オール)	7-(1)-1056
30568	［９，９’－ビフェナントレン］－10，10’－ジオール	7-(1)-1057
30569	フェナントレン－９－オール	7-(1)-1058
30570	７－（10－フェニルアントラセン－９－イル）ナフト［１，２－ｂ］［１］ベンゾフラン	8-(4)-2214
30571	（２Ｚ）－ブタ－２－エン二酸－２，２－ジエトキシ－Ｎ－（{６－［３－（４－エチルピペラジン－１－イル）アゼチジン－１－イル］ピリジン－２－イル} メチル) エタン－１－アミン（２／１）	8-(2)-2969
30572	ブタ－１，３－ジエン・２－メトキシエチル＝プロパ－２－エノアート共重合物	9-4110
30573	３－ブチル－３，７－ジメチルオクタ－６－エナールを主成分とする、（２Ｚ）－３，７－ジメチルオクタ－２，６－ジエナールと（２Ｅ）－３，７－ジメチルオクタ－２，６－ジエナールとマグネシウム＝ブタン－１－イド＝クロリドの反応生成物	2-(8)-932
30574	６－ブチル－３，６－ジメチルヘキサヒドロ－１－ベンソフラン－２（３Ｈ）－オン	8-(4)-2215
30575	５－ブチル－２－（１－ヒドロキシプロパン－２－イル）－５－メチルシクロヘキサン－１－オール	3-(4)-849
30576	２－tert－ブチル－１，４－フェニレン＝ビス（４－｛４－［(プロパ－２－エノイル）オキシ］ブトキシ} ベンソアート)	4-(7)-2734
30577	tert－ブチル＝４－ベンジル－４－ヒドロキシピペリジン－１－カルボキシラート	8-(1)-4619
30578	３－（１－ブチル－２－メチル－１Ｈ－インドール－３－イル）－６－（ジメチルアミノ）－３－［４－（ジメチルアミノ）フェニル］－２－ベンゾフラン－１（３Ｈ）－オン	8-(1)-4620
30579	ブチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・α－メチル－ω－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］ポリ（オキシエタン－１，２－ジイル）共重合物	9-4111
30580	５－ブチル－５－メチル－２－（プロパ－１－エン－２－イル）シクロヘキサン－１－オール	3-(4)-850
30581	２－tert－ブトキシ－Ｎ－メチル－２－オキソエタン－１－アミニウム＝クロリド	2-(2)-336
30582	（９Ｈ－フルオレン－９－イル）メチル＝｛(７Ｓ）－５－（２，２－ジエトキシエチル）－１^{4}－エチル－９^{2}－フルオロ－６－オキソ－９^{4}－［(プロパ－２－エン－	8-(2)-2970

	１－イル）オキシ］－５－アザ－１（１）－ピベラジナ－３（２，６）－ピリジナ－２（３，１）－アゼチジナ－９（１）－ベンゼナノナファン－７－イル｝カルバマート	
30583	２－（４－フルオロフェニル）プロパン－２－イル＝２－メチルプロパ－２－エノアート	4-(7)-2735
30584	２－（４－フルオロフェニル）プロパン－２－オール	4-(10)-1524
30585	１－ブロモエチル＝アダマンタン－１－カルボキシラート	7-(2)-402
30586	２－ブロモ－１－エチルピリジン－１－イウム＝テトラフルオロボラヌイド	8-(1)-4621
30587	Ｎ－［(６－ブロモピリジン－２－イル）メチル］－２，２－ジエトキシエタン－１－アミン	8-(1)-4622
30588	４－（３－ブロモフェニル）－６，８－ジクロロ－２－メチル－１，２，３，４－テトラヒドロイソキノリン	8-(1)-4623
30589	（４Ｓ）－４－（３－ブロモフェニル）－６，８－ジクロロ－２－メチル－１，２，３，４－テトラヒドロイソキノリン	8-(1)-4624
30590	（４Ｓ）－４－（３－ブロモフェニル）－６，８－ジクロロ－２－メチル－１，２，３，４－テトラヒドロイソキノリン－２－イウム＝（２Ｓ，３Ｓ）－２，３－ビス（ベンゾイルオキシ）－３－カルボキシプロパノアートーエタノールー水（１／１／１）	8-(1)-4625
30591	３－ブロモ－４－フルオロ安息香酸	4-(4)-1471
30592	α－（１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロ－４－オキソ－４－{［２－（ウンデカ－10－エン－１－イル）トリデカ－12－エン－１－イル］アミノ｝ブチル）－ω－［１，１，２，２ーテトラフルオロ－２－（トリフルオロメトキシ）エトキシ］ポリ［オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（オクタフルオロブタン－１，４－ジイル)］を主成分とする，２－（ウンデカ－10－エン－１－イル）トリデカ－12－エン－１－アミンと［(二フツ素とα－メチル－ω－｛［２，３，３，３－テトラフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）プロパノイル］オキシ｝ポリ［オキシ（１，１，２－トリフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロブタン－１，４－ジイル)］の反応生成物）とメタノールの反応生成物］の反応生成物	10-4282
30593	α－［１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロ－４－オキソ－４－（{13－（トリメトキシシリル）－２－［11－（トリメトキシシリル）ウンデシル］トリデシル｝アミノ）ブチル］－ω－［１，１，２，２－テトラフルオロ－２－（トリフルオロメトキシ）エトキシ］ポリ［オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（オクタフルオロブタン－１，４－ジイル)］を主成分とする，｛２－（ウンデカ－10－エン－１－イル）トリデカ－12－エン－１－アミンと［(二フツ素とα－メチル－ω－｛［２，３，３，３－テトラフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）プロパノイル］オキシ｝ポリ［オキシ（１，１，２－トリフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロブタン－１，４－ジイル)］の反応生成物）とメタノールの反応生成物］の反応生成物｝とトリメトキシシランの反応生成物	10-4283
30594	α－（１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロ－４－メトキシ－４－オキソブチル）－ω－［１，１，２，２－テトラフルオロ－２－（トリフルオロメトキシ）エトキシ］ポリ［オキシ（テトラフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（オクタフルオロブタン－１，４－ジイル)］を主成分とする，(二フツ素とα－メチル－ω－｛［２，３，３，３－テトラフルオロ－２－（ヘプタフルオロプロポキシ）プロパ	10-4284

	ノイル］オキシ｝ポリ［オキシ（１，１，２－トリフルオロエタン－１，２－ジイル）オキシ（１，１，２，２，３，３－ヘキサフルオロブタン－１，４－ジイル)］の反応生成物）とメタノールの反応生成物	
30595	（５^{6}Ｓ，５^{9a}Ｓ）－Ｎ－ベンジル－１^{4}－エチル－７^{2}－フルオロ－５^{4}，５^{7}－ジオキソ－５^{2}－（プロパ－２－エン－１－イル）－７$^{4-}$［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］－５^{3}，５^{4}，５^{6}，５^{7}，５^{9}，５^{9a}－ヘキサヒドロ－５（８，６）－ピラジノ［２，１－ｃ］［１，２，４］トリアジナ－１（１）－ピベラジナ－３（２，６）－ピリジナ－２（３，１）－アゼチジナ－７（１）－ベンゼナヘプタフアンージ（５^{2}Ｈ）－カルボキシアミド	8-(3)-1588
30596	（７Ｓ）－Ｎ－ベンジル－11－エトキシ－９－（｛６－［３－（４－エチルピペラジン－１－イル）アゼチジン－１－イル］ピリジン－２－イル｝メチル）－７－（｛２－フルオロ－４－［(プロパ－２－エン－１－イル）オキシ］フェニル｝メチル）－５，８－ジオキソ－３－（プロパ－２－エン－１－イル）－12－オキサ－２，３，６，９－テトラアザテトラデカン－１－アミド	8-(2)-2971
30597	（２Ｓ）－１－［(ベンジルオキシ）カルボニル］アゼチジン－２－カルボン酸	8-(1)-4626
30598	１－｛［(ベンジルオキシ）カルボニル］アミノ｝シクロペンタン－１－カルボン酸	4-(4)-1472
30599	（２Ｓ）－２－｛［（ベンジルオキシ）カルボニル］アミノ｝－３－（４－メチルフェニル）プロパン酸	4-(4)-1473
30600	（２Ｓ）－｛［(ベンジルオキシ）カルボニル］（メチル）アミノ｝（シクロペンチル）酢酸	4-(4)-1474
30601	Ｎ－［(ベンジルオキシ）カルボニル］－Ｎ－メチル－Ｌ－アラニン	4-(4)-1475
30602	［２－（ベンジルカルバモイル）－１－（プロパ－２－エン－１－イル）ヒドラジン－１－イル］酢酸	4-(4)-1476
30603	α－［４－（ベンタフルオロフェノキシ）フェニル］－ω－｛２－［４－（ベンタフルオロフェノキシ）フェニル］－１，３－ジオキソラン－２－イル｝ポリ（１，３－ジオキソラン－２，２－ジイル－１，４－フェニレンオキシ－１，４－フェニレンカルボニル－１，４－フェニレンオキシ－１，４－フェニレン）	10-4285
30604	［末端に（２－ヒドロキシエチル）スルファニル基を有する，エタン－１，２－ジイル＝オクタデシルカルバマート＝プロパ－２－エノア－ト・エタン－１，２－ジイル＝ヘキサデシルカルバマート＝プロパ－２－エノアート共重合物］と［１，１'－メチレンビス（４－イソシアナトベンゼン）重縮合物（ポリカルボジイミドに限る。)］の付加反応生成物	10-4286
30605	メチル＝４－アセチルオキサン－４－カルボキシラートを主成分とする，１－クロロ－２－（２－クロロエトキシ）エタンとメチル＝３－オキソブタノアートの反応生成物	8-(4)-2216
30606	２－［(２－メチルアダマンタン－２－イル）オキシ］－２－オキソエチル＝ヒドロキシアセタート	7-(2)-403
30607	｛rac－（２Ｒ）－２－メチル－６－［(１Ｓ，４Ｒ）－１，７，７－トリメチルビシクロ［２．２．１］ヘプタン－２－イル］シクロヘキサン－１－オンと２－メチル－６－［(１Ｓ，４Ｒ，６５）－５，５，６－トリメチルビシクロ［２．２．１］ヘプタン－２－イル］シクロヘキサン－１－オン｝を主成分とする，rac－（１Ｒ，４Ｓ）－２，２－ジメチル－３－メチリデンビシクロ［２．２．１］ヘプタンと２－メチルフェノールの反応生成物の水素化反応生成物	7-(2)-404
30608	６－メチルピリジン－３－カルボン酸	8-(1)-4627
30609	２－メチルプロパ－２－エン酸・メチル＝２－メチルプロパ－２－エノアート・α	9-4112

	－メチル－ω－｛２－［({２－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］エチル｝カルバモイル）アミノ］プロポキシ｝ポリ［オキシエタン－１，２－ジイル／オキシ（メチルエタン－１，２－ジイル)］共重合物	
30610	α－メチル－ω－｛２－［({２－［(２－メチルプロパ－２－エノイル）オキシ］エチル｝カルバモイル）アミノ］プロポキシ｝ポリ［オキシエタン－１，２－ジイル／オキシ（メチルエタン－１，２－ジイル)］	10-4287
30611	メチル＝１－メチル－４－（プロパン－２－イル）ビシクロ［２．２．２］オクタ－５－エン－２－カルボキシラートとメチル＝４－メチル－１－（プロパン－２－イル）ビシクロ［２．２．２］オクタ－５－エン－２－カルボキシラートの混合物	7-(2)-405
30612	Ｎ，Ｎ'－［メチレンビス（２，６－ジメチル－４，１－フェニレン)］ジ（ナフタレン－１－アミン)	7-(4)-1443
30613	７－メトキシ－１，１，５，５－テトラメチル－１，３，４，５，６，７－ヘキサヒドロ－２Ｈ－２，４ａ－メタノナフタレン	7-(1)-1059
30614	｛[モノ（又はビス又はトリス）（１－フェニルエチル）フェノキシ］メチル｝オキシランを主成分とする，(クロロメチル）オキシランとトリス（１－フェニルエチル）フェノールとビス（１－フェニルエチル）フェノールと（１－フェニルエチル）フェノールの反応生成物	8-(4)-2217
30615	四カリウム＝１^{4}－アミノ－10^{4}－ニトロ－９，９－ジオキソ－８－オキサ－９λ^{6}－チア－２，３，５，６－テトラアザ－１（1)，４（１，４)，７（１，８）－トリナフタレナ－10（１）－ベンゼナデカファン－２，５－ジエン－１^{6}，４^{7}，７^{3}，７^{6}－テトラスルホナ－トを主成分とする，８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と[(８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と｛二ナトリウム＝４－アミノ－５－[(４－ニトロベンゼン－１－スルホニル)オキシ]ナフタレン－２，７－ジスルホナートのジアゾ化反応生成物｝の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩)のジア化反応生成物]の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩の混合物	5-1584
30616	リチウム＝１－（４－クロロ－２－メチルチエノ［２，３－ｄ］ピリミジン－６－イル)－４，４－ジメチルシクロヘキサン－１－オラート	8-(2)-2972
30617	六カリウム=１^{4}，１^{8}－ジヒドロキシ－13^{4}－ニトロ－12,12－ジオキ－11－オキサ－12λ^{6}－チア－２，３，５，６，８，９－ヘキサアザ－１(１)，４，７(14),10(１，８)－テトラナフタレナ－13(１)－ベンゼナトリデカフアン－２，５，８－トリエン－13，１^{7},４^{7},７^{7}，10^{3}，10^{6}－ヘキサスルホナートを主成分とする、({８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と［(８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と｛二ナトリウム＝４－アミノ－５－［(４－ニトロベンゼン－１－スルホニル）オキシ］ナフタレン－２，７－ジスルホナートのジアゾ化反応生成物｝の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩）のジアゾ化反応生成物］の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩｝のジアゾ化反応生成物）と二カリウム=15－ジヒドロキシナフタレン－２，６－ジスルホナートの反応生成物とそのナトリウム塩の混合物	5-1585
30618	六ナトリウム=１^{8},10^{4},10^{8}－トリヒドロキシ－２，３，５，６，８，９－ヘキサアザ－１，10(１)，４，７(14)－テトラナフタレナデカフアン－２，５，８－トリエン－１^{3}，１^{6}，４^{6}，７^{6}，10^{3},10^{7}–ヘキサスルホナートを主成分とする[（({８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と［(８－アミノナフタレン－２－スルホン酸と｛ニナトリウム＝４－アミノ－５－［(４－ニトロベンゼン－１－スルホニル）オキシ］ナフタレン－２，７－ジスルホナートのジアソ化反応生成物｝の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩）のジアソ化反応生成物］の反応生成物とそのカリウム及びナトリウム塩｝のジアソ化反応生成物）とニカリウム＝15－ジヒドロキシ	5-1586

	ナフタレン－２，６－ジスルホナートの反応生成物とそのナトリウム塩］と水酸化ナトリウムと炭酸二ナトリウムの反応生成物	

****

［5］*医薬品*

◇医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令第三条の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品の有効成分の一部を改正する件（厚生労働省告示第 375 号）

［官報］ 令和 4 年 12 月 27 日　号外　第 278 号　20～22 頁

https://kanpou.npb.go.jp/20221227/20221227g00278/20221227g002780020f.html

○厚生労働省告示第 375 号

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令（昭和三十六年政令第十一号）第三条の規定に基づき、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令第三条の規定に基づき厚生労働大臣の指定する医薬品の有効成分（昭和五十五年厚生省告示第百六十九号）の一部を次の表のように改正し、令和五年一月一日から適用する。

令和 4 年 12 月 27 日　　厚生労働大臣　　加藤　勝信

（傍線部分は改正部分）

―*「改正後」と「改正前」が併記されているが、紙面の都合上、「改正後」のみ掲載した。＜ACSES 事務局＞*―

改　正　後	
種類	有効成分
催眠鎮静薬	１　（略）
	２　ブロモバレリル尿素
解熱鎮痛薬	１～５　（略）
（かぜ薬を含む。）	６　<u>ｄｌ－メチルエフェドリン塩酸塩</u>
	７　<u>カフェイン水和物</u>。ただし、１包中 0.25 ｇ以下を含有する場合に限る。
	8～11　（略）
	12　アリメマジン酒石酸塩
	13 ・ 14　（略）
	15　ブロモバレリル尿素。ただし、１包中 0.5 ｇ以下を含有する場合に限る。
	16　<u>クロルフェニラミンマレイン酸塩</u>
	17　<u>ジヒドロコデインリン酸塩</u>。ただし、１個中 15 mg以下を含有する場合及びシロップ剤であって１日量中 50 mg以下を含有する場合に限る。
鎮谷薬	１　<u>ジフェニドール塩酸塩</u>
	２　<u>ピリドキシン塩酸塩</u>
	３　<u>カフェイン水和物。</u>ただし、１包中 0.25 ｇ以下を含有する場合に限る。
	４　（略）
	５　<u>スコポラミン臭化水素酸塩水和物</u>
	６・７　（略）
	８　ブロモバレリル尿素。ただし、１個中 0.5 ｇ以下を含有する場合に限る。
	９　（略）
眼科用薬	<u>硫酸亜鉛水和物</u>
耳鼻科用薬	１　（略）
	２　<u>カフェイン水和物。</u>ただし、１包中 0.25 ｇ以下を含有する場合に限る。
	３・４　（略）
	５　<u>アリメマジン酒石酸塩</u>
	６　（略）
	７　<u>クロルフェニラミンマレイン酸塩</u>

	８　dークロルフェニラミンマレイン酸塩
	９　（略）
抗ヒスタミン薬	１　ピリドキシン塩酸塩
	２・３　（略）
	４　クロルフェニラミンマレイン酸塩
	5　dークロルフェニラミンマレイン酸塩
	６　リボフラビン酪酸エステル
	７　（略）
	８　リン酸水素カルシウム水和物
鎮咳去痰薬	１～３　（略）
	４　トリメトキノール塩酸塩水和物
	５　（略）
	6　dーメチルエフェドリン塩酸塩
	7～14　（略）
	15　デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物
	16～18　（略）
	19　チベピジンヒベンズ酸塩
	20　ブロモバレリル尿素。ただし、１包中 0.5 g 以下を含有する場合に限る。
	21　クロルフエニラミンマレイン酸塩
	22　ｄ－クロルフエニラミンマレイン酸塩
	23　ジヒドロコデインリン酸塩。ただし、１個中 15 mg以下を含有する場合及びシロップ剤であって１口量中 50 mg以下を含有する場合に隴る。
（略）	
歯科口腔用薬	１・２　（略）
	（削除）
	３　ジブカイン塩酸塩。ただし、製剤中ジブカインとして 1.0%以下を含有する場合に限る。
	４～９　（略）
	10　硫酸アルミニウムカリウム水和物
胃腸薬	１　アクリノール水和物
	２～５　（略）
	６　ウルソデオキシコール酸
	７　カルニチン塩化物
	８　ベルベリン塩化物水和物
	９　（略）
	10　パパベリン塩酸塩
	11～30　（略）
	31　ブチルスコポラミン臭化物
	32　（略）
	33　メチルオクタトロピン臭化物
	34　メチルベナクチジウム臭化物
	35～46　（略）
	47　乳酸カルシウム水和物
	48～54　（略）
	55　硫酸マグネシウム水和物
	56　リン酸水素カルシウム水和物

	57（略）
痔疾用薬	１　ジブカイン塩酸塩。ただし、製剤中ジブカインとして1.0%以下を含有する場合に限る。
	２　（略）
	３　トコフェロール酢酸エステル
	４　ヒドロコルチゾン酢酸エヌテル
	５　（略）
外皮用薬	１　アクリノール水和物
	２～８　（略）
	９　塩化アルミニウム（Ⅲ）六水和物
	10　ベンザルコニウム塩化物
	11　ベンゼトニウム塩化物
	（削除）
	12　ジフェンヒドラミン塩酸塩
	13　ジブカイン塩酸塩。ただし、一製剤中ジブカインとして1.0%以下を含有する場合に限る。
	14　ナフアゾリン塩酸塩
	15～22（略）
	23　デキサメタソン酢酸エステル
	24　トコフェロール酢酸エステル
	25　ヒドロコルチゾン酢酸エステル
	26～41（略）
	42　レチノールパルミチン酸ユスチル
	43・44　（略）
	（削除）
	45～49（略）
駆虫薬	１　カイニン酸水和物。ただし、１包中0.02ｇ以下を含有す乙場合に隴る。
	２　（略）
	その他　　1～12　（略）
	13　ピリドキシン塩酸塩
	14～57　（略）
	58　ｄ－α－トコフェロールM酸エステル
	59～77　（略）
	78　チアミン硝化物
	79～151　（略）
	152　リボフラビン酪酸エステル
	153～155　（略）
	156　硫酸マグネシウム水和物
	157～160　（略）

****

[6] ***食品安全衛生関係***

◇特定保健用食品の表示許可について

＜消費者庁　2022年12月27日＞

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_for_specified_health_uses/#m02

****

[7] ***調査、公募、意見募集等***

[公募、意見募集等]

◇「サイバー攻撃被害に係る情報の共有・公表ガイダンス（案)」の意見公募手続（パブリックコメント）を開始しました

＜経済産業省　2022 年 12 月 27 日＞

https://www.meti.go.jp/press/2022/12/20221226003/20221226003.html?from=mj

---

[統計資料]

◇年金記録に係る訂正請求の受付・処理状況などの諸統計

＜厚生労働省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=sVWMr8PukhkDjX0jY

****

[8] *その他省庁発表*

◇労働政策審議会労働条件分科会報告「今後の労働契約法制及び労働時間法制の在り方について（報告)」を公表します

＜厚生労働省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=E_cuDWFMMLuhL9GBY

****

[9] *関連会議等の開催案内、記録・報告、資料等*

[開催案内]

・中央環境審議会大気・騒音振動部会 有害大気汚染物質排出抑制対策等専門委員会（第２回）の開催について

１月12日

＜環境省　2022年12月27日＞　https://www.env.go.jp/press/press_01005.html

（１）　第１回専門委員会における指摘事項とその対応について

（２）　酸化エチレンに係る事業者の自主的取組のフォローアップのあり方について

（３）　その他

****

[10] *その他*

◇インフルエンザ、感染症関係

・鳥取県鳥取市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内 22 例目）に係る移動制限の解除について

＜農林水産省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221227_4.html

・広島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について

＜農林水産省　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221227.html

---

◇その他

・学術会議、国の改革案に「強い危惧」　国民向けに説明文書

＜朝日新聞　2022 年 12 月 28 日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDW7K4DQDWULBH00P.html

日本学術会議は 27 日、政府による学術会議の改革案に再考を求めて 21 日の総会で決議した「声明」を、国民向けに詳しく説明した文書を発表した。声明の意味や、学術の独立性の意義などが社会に十分に理解されていないという会員の声を受けた。

文書は「声明に関する説明」と題し、A4 判 6 ページ。21 日の声明では、①改革のために法改正が必要とする理由を示されていないこと②会員選考への「第三者委員会」の関与③政府の判断による組織編成――など 6 項目にわたって、政府案が学術の独立性を損なう懸念を示した。

「説明」では、各項目について議論の経緯や懸念の根拠などを詳しく説明した。

2020 年、菅義偉政権で学術会議が選んだ 6 人の会員候補が任命拒否され、いまだに理由は明らかにされない。改革案では、会員選考に第三者委員会の関与が求められているが、学術会議は「任命を拒否する道が開かれることになる」と「強い危惧」を表明した。

「学術の独立性」の意義については、「政治や経済などとは異なる固有の価値基準による意思の表明や活動を通じて、有益な観点を提供し、政策決定や学術の発展、ひいては人類の福祉に貢献すること」などと述べた。

さらに、政府が改革案をつく…

・政府の改革案は「日本学術会議の独立性侵害」　研究者らが反対声明
＜朝日新聞　2022 年 12 月 27 日＞　https://www.asahi.com/articles/ASQDW64FVQDWUTIL02J.html
政府が今月示した日本学術会議の組織改革方針に対し、研究者や有識者でつくる「学問と表現の自由を守る会」は 27 日、東京都内で記者会見した。政府方針について「学術会議の独立性と学問の自由を侵害するもの」だとして反対し、撤回を求める声明を発表した。
政府は 6 日、日本学術会議のあり方についての方針を公表。国の機関として存続させる一方、透明性を高めるとして会員選考や活動評価に第三者を関与させる組織改革を求めた。来年の通常国会での関連法改正を目指している。
これに対し、守る会の声明では「会員選考と活動の独立性は世界のアカデミーの常識。学術会議を政府の御用機関に改変することは、国民の幸福と人類社会の福祉、日本の国益に反する」と指摘。法改正について「学術会議の会員選考と活動に政府が直接介入する」ものだと批判し「軍事優先の学術総動員体制への道を開く」として撤回を求めた。
守る会は、2020 年 10 月…
****
[付録]
◇年末年始に増加する高齢者の事故に注意しましょう！
－ 浴室での溺水事故、餅による窒息事故、掃除中・除雪中の転倒・転落事故等に注意 －

上記［1］関係

＜消費者庁　2022 年 12 月 27 日＞
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_067/index.html
年末年始は寒さに加えて家族の帰省や会食、大掃除など普段と異なった行動をすることが多い時期です。そのような中、高齢者にとっては加齢に伴う身体機能や認知機能の低下、病気や薬の影響などの要因によって思いがけない事故が発生しています。
消費者庁では、年末年始など冬のこの時期に起こりやすい高齢者の事故を中心に、事故防止の観点からポイントをまとめました。

〇浴室での溺水事故 ～冬季になるにつれ発生件数増加～

〔事故を防ぐためのポイント〕
◆入浴前の注意ポイント
1. 脱衣所や浴室を暖めましょう。（断熱性の向上と暖房設備の導入を検討も）
2. こまめな水分補給をしましょう。
3. 食後すぐの入浴や、飲酒後、医薬品服用後の入浴は避けましょう。
4. 入浴する前に同居者に一声掛けて、意識してもらいましょう。

◆入浴時の注意ポイント
5. 湯温は 41 度以下、湯につかる時間は 10 分までを目安にしましょう。
6. 湯温や部屋間の温度差、入浴時間など普段意識しにくい部分について、温度計やタイマーを活用して見える化しましょう。
7. 浴槽から急に立ち上がらないようにしましょう。
8. 浴槽内で意識がもうろうとしたら、気を失う前に湯を抜きましょう。

〇餅による窒息 ～死亡事故の 4 割が 1 月に、約 2 割が正月三が日に発生!～

〔事故を防ぐためのポイント〕
1. 餅は、小さく切り、食べやすい大きさにしてください。
2. 飲み物や汁物などを飲み、喉を潤してから食べましょう。
（ただし、よく噛まないうちに飲み物や汁物などで流し込むのは危険です。）

3. 一口の量は無理なく食べられる量にしましょう。
4. ゆっくりとよく噛んでから飲み込むようにしましょう。
5. 高齢者が餅を食べる際は、周りの方も食事の様子に注意を払い、見守りましょう。

〇掃除中・除雪中の転倒・転落事故等 ～冬季に救急搬送が増加～

〔事故を防ぐためのポイント〕

1. 滑りやすい場所で掃除をする際には転倒に注意し、足場が濡れている場合は事前に拭き取りましょう。
2. 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えて整理しましょう。
3. 脚立やはしごを使用した高所作業は極力控え、行う場合は広いステップや上枠が付いた身体のバランスを取りやすい用具を使い、安定した場所で無理なく行いましょう。踏み台等を使っての作業も安定した場所で行いましょう。
4. 除雪作業は無理せず二人以上で。用具の点検と安全対策を確実に行いましょう。
5. 洗剤などの取扱説明、注意表示をよく確認し、正しく使用しましょう。

◇2022年農業技術10大ニュースの選定について

＜農林水産省　2022年12月26日＞　https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/221226.html

選定結果について

選定した「2022 年農業技術 10 大ニュース」は、次のとおりです。

TOPIC1

メタンの産生が少ない牛に特徴的な新種の細菌を発見

－げっぷ由来メタンの排出削減に期待－

TOPIC2

植物性プラスチックのリサイクルで肥料を製造

－再利用工程で発生する尿素を肥料として有効活用－

TOPIC3

豚熱とアフリカ豚熱を迅速・同時に判別！

－検査効率の大幅な向上で防疫に貢献－

TOPIC4

土壌病害診断 AI アプリを開発

－圃場ごとの発生しやすさに応じた対策法を提示－

TOPIC5

新たな道を切り開く「みちしずく」

－基腐病に強く、多収の焼酎・でん粉原料用かんしょ新品種を育成－

TOPIC6

振動でトマト害虫を防除

－コナジラミ類の発生抑制・トマトの授粉促進による安定生産へ－

TOPIC7

ウンカ発生調査　AI で大幅時短

－目視では 1 時間以上の調査時間を 3～4 分に短縮－

TOPIC8

超音波を活用したヤガ類の防除技術を確立

－開発した装置で農薬散布回数 9 割減－

TOPIC9

リンゴ黒星病の発生低減に貢献

－リンゴの落葉収集機で効率よく 9 割除去－

TOPIC10

急傾斜 45 度対応のリモコン草刈機
ー強く、早く、小さい！中山間でも安全作業ー
********** 以上 **********